

いたみ杉の子誌上作品展

利用者さんの力作をご紹介します



「カラフルツリー」
ゆうゆう・前田 幸一さん



「シンガー」
ホーブゆう・中井 美穂さん



「秋の風景」
フォーゆう・合同作品



「無題」
ゆうゆう・杉岡 巧さん



「Happy Birthday」
ゆうゆうスマイル班・合同作品



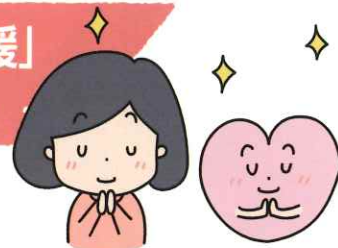
「乗り物集合」
ゆうゆう・田中 貴大さん

<今号の特集> ひとり一人の想いを大切にした支援

contents (目次)

- P2~4...特集
- P5...「画的整備」を基本とした地域生活支援拠点について
- P6...いたみ杉の子後援会等
- P7...事業・決算報告
- P8...インフォメーション

「ひとり一人の想いを大切にした支援」 魅力ある法人を目指して…



「いたみ杉の子」は、主に知的・発達障害のある方の支援を行っています。知的・発達障害への支援においては、「こんな支援」という一律的な対応が難しいだけに、当法人では、「多角的な視点で利用者個々の状態を把握すること」「ご本人の可能性を引き出すこと」「ご本人の意思決定を尊重したサポート」などを基本に、利用者の「自己実現」を目指した支援を行っています。

今回、そのような「支援」の取組みの一例をご紹介します。「いたみ杉の子」では、このような「ひとり一人を大切にした支援」を通じ、利用者の方々が、自らの想いをもち、日々いきいきと暮らしていけるような魅力ある法人を目指して行きたいと思えます。

社会福祉法人いたみ杉の子 理事長 小山 達也

集団活動を通してステップアップ

シーズゆうでは、日々の活動として、創作や運動、おでかけ、買い物、自由遊び、個別プログラム(活動や就労に向けた課題など)等に取り組んでいます。年間イベントとしては、ツリーイングやお楽しみ会、クリスマス会、夏祭り、体験新喜劇等の活動があります。

その中でも体験新喜劇の活動は、ここ数年の新たな取組みとして繰り返し広げてきました。これまでは丁寧な個別対応が多かったこともあり、子ども達に集団で一つのものを作り上げるという成功体験を積んでほしいというスタッフの願いがきっかけとなりました。一人ひとりの子どもの豊かな成長にも大きな影響を与えることができました。例えば普段から暴言を吐いていたAさん、喜劇の中であれば、暴言が認められるし、笑いにもなりました。Aさんは、皆から拍手をもらえると、とてもうれしいと感じ、周囲から認められることで自己肯定感が高まりました。ダンスや歌が好きなBさんは皆の注目を集めたいといつも思っていて、客席の皆から拍手をもらえることで自信につながりました。集団としての一体感も生まれました。

取組みを開始した当初と比べると、経験を積んでいくことでスタッフの意気込みも変わり、子ども達と一緒にその場を楽しもうというスタッフの意識が子ども達にも伝わりました。そして子ども達は思い切り自己表現をすることができるようになりました。これからもシーズゆう一同、子ども達とスタッフが一緒に成長していけるように様々な活動を通して、経験を積み重ねていきたいと思えます。

シーズゆう 所長 吉永 裕美



体験活動の風景(新喜劇に取り組んでいます)

日々の積み重ねが自信に!



お菓子工房リアン(lien)でお菓子作りをしたいという思いを持ち、ゆうゆうを利用されることになったSさん。当時から手先がとても器用で作業も上手にすすめることができました。一方で、緊張が高く自分の思いを上手く伝えることが難しい様子がうかがえました。家に帰ってからも失敗した事ばかり話されていたようです。一緒に過ごすスタッフも、本人のできることや、たくさんある思いをより活かせることができないものだろうかと感じていました。

そこで、自信を持てるようにと、出来ていることやチャレンジしたことなどを一緒に確認し、嬉しさを共有する時間を重ねるようにしてきました。2年経った今では、できることの幅が広がり、作業スピードも格段に上がりました。それ以上に、自ら「これします」「手伝えることないですか」などと積極的な発信がみられるなど、表情からも自信を感じられるようになられてきています。本人の「お菓子作りをしたい」という思いを大切にすること、また、日々の取組の積み重ねから、少しずつ自信を持ち、新たな意欲につながってきたものと感じます。

スタッフにおいても、日々の変化や成長を実感し、一緒に喜びながらの支援を大切にしています。

ゆうゆう 所長 藤井 尚生



食を通じた豊かな生活の実現



ホームでは「お鍋」なども取り入れてます

いたみ杉の子では食事の面においても、利用者さんの特性に合わせた様々な対応を行っています。嚥下困難な方への“とろみ食”をはじめ、配慮がいる方個々に対応したメニューの提供なども行っています。また、季節感を感じられる、栄養バランスの取れた食事の提供を日々大切にしています。中でも、毎月その時期に合わせた国産フルーツの提供は、特に人気のメニューになっています。利用者さんの「おいしかった!」「ごちそうさま!」を励みに、家庭的で楽しみのある食事となるよう今後も工夫していきます。

管理栄養士 松本 朋子

笑顔を支える健康管理

看護職として私たち看護師が日々の健康管理で心がけていることは、“その人の日常を知る”そして“変化に気づく”ことです。このことは支援者とも共有しており、“いつもと違う”という変化があると報告や相談をいただきます。「痛み」や「しんどさ」を訴えづらい利用者さんのいつもと違う変化に気づくことで、病気等の予防や早期発見・早期治療につなげられるように日々努めています。高齢化が進む中、利用者さんひとり一人の年齢的な変化にも寄り添い、健康の維持を支えていきたいと思えます。

看護師 福島 久美



笑顔で健やかに…。

発達障害学生等の相談・就労支援を行います

発達支援連携室では、障害のある学生支援の活動に2017年から取り組んでいます。主に、大学の支援者向けのセミナーの開催、大学のネットワーク(現在、神戸から北摂の40大学程度)と行政や地域の支援機関を中心としたネットワークでの合同の研修などを実施してきました。

今年度も5月に大学のキャリアセンターなどを中心にしたセミナーをオンラインで実施したところ45名の参加があり、民間企業で実施されたインターンシップの取り組みや、大学における支援の体制作り、学生同士の学び合いの取り組みなどの報告を受けての研修となりました。

今年度から、発達支援連携室に就労支援の専門家を迎え入れて、従来にも増して取り組みを強化する予定です。具体的には、

- ①障害のある学生に対し個別の相談と就職支援をします。
大学と連携して保護者への相談と情報提供もします。
- ②大学担当者への支援として、「こころのスキルアップセミナー」「保護者向けのセミナー」を出前で取り組みます。
- ③地域の社会資源などと連携して、学生の支援についての制度や情報を提供します。



私学も含めた大学における「合理的配慮の義務化」に伴い、期待とニーズが高まっているだけに頑張っていきたいと思います。

いたみ杉の子 発達支援連携室長 河南 勝

「いたみ杉の子」の福祉サービスの利用相談等について

今回の特集ページはいかがでしたでしょうか。

「いたみ杉の子」では、児童・成人それぞれのライフスタイルに合わせ事業を展開しております。

「いたみ杉の子」の実践する日中支援や、地域生活などに関心のある方のご相談をお受けしております。

- 生活介護、就労継続支援、グループホーム
- 相談支援、就労相談
- 児童発達支援 など

■問合せ：ご担当の相談員を通して各事業所までお問い合わせください



いたみ杉の子専門職リレーコラム③

「今日はすごく顔色がいいね!」「たくさん声が出るね!」「流れる唾液も減ってきたね!」「よく嚙んでごっくんできるようになってきたね!」

いたみ杉の子で専門職として関わるようになって数年が経過し、各所のスタッフとの利用者さんの状態の確認がこんな風に行えるようになってきました。人とコミュニケーションを取ること、安全に食事をする。毎日のことだけど利用者さんには課題がいっぱい。日常生活についてはスタッフから些細な情報も色々共有してもらいます。問題点を見つけては、食事の形態や食器は栄養士に、姿勢を調整したい時はOTに相談しながら練習課題を整理していきます。お一人ずつの特性を理解して日常生活の中で気持ちやタイミング、口腔機能や姿勢など、ポイントを押えて繰り返し練習していくと、穏やかに楽しく過ごしていただけることも増えてきています。

これからも、専門職それぞれの特色を生かしながらチーム一丸となってサポートしていきたいと思っています。

言語聴覚士 平井 綾乃



市内の障害福祉事業所と連携して 「地域生活支援拠点」に取り組みます…



地域生活支援拠点とは…

障害者等の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、地域移行を進めるため、重度障害にも対応できる専門性を有し、地域生活において、障害者等やその家族の緊急事態に対応を図るもので、具体的に2つの目的を持ちます。

- ①緊急時の迅速・確実な相談支援の実施・短期入所等の活用
⇒地域における生活の安心感を担保する機能を備える
- ②体験の機会の提供を通じて、施設や親元からGH、一人暮らし等への生活の場の移行をしやすくする支援を提供する体制を整備
⇒障害者等の地域での生活を支援する

厚生労働省ホームページより

伊丹市における「地域生活支援拠点」の状況

伊丹市では令和4年2月に、複数の事業所で機能を役割分担する「面的整備」の形態を取って、地域生活支援拠点を立ち上げました。

現在、市内の8つの事業所が、①相談、②緊急時の受入れ・対応、③体験の機会・場の提供、④専門の人材の確保、⑤地域の体験づくりという5つの機能の中から、事業所の特色に応じて役割を選択し、障がい者・児が住み慣れた地域で安心して生活できる体制づくりを支えています。

いたみ杉の子におかれましては、ウォークゆうとライフゆうの2つの事業所が、②緊急時の受入れ・対応③体験の機会・場の提供④専門の人材の確保という機能を担って頂いておりますが、この機能を担う事業所は他にはありません。

さらにこの令和6年度から、もともと①相談、⑤地域の体験づくりの担い手であったウイズゆうで、市役所や多くの事業所が休みとなる、夜間・休日における緊急時の相談対応も引き受けて頂くようになるなど、地域生活支援拠点の展開に、杉の子は欠かせない存在であると言えます。

今年度の障害福祉サービスに対する報酬改定からは、地域移行について、病院や入所施設からグループホームへ、というものから、より在宅生活への移行を後押ししていく方向性が感じられ、本市においてもその流れに沿った対応を取っていく必要があります。

そのためにも、時間や曜日を問わずに相談できる体制を維持しながら、親亡き後を見据えての体験の場の利用を促進するなど、地域生活支援拠点の機能を積極的に活用していきたいと考えておりますので、杉の子の皆さまには、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。

伊丹市障害福祉課長 森川 隆彦

「いたみ杉の子」の状況

「いたみ杉の子」では、伊丹市における地域生活拠点事業の一翼を担っています。特に、相談対応と緊急時の受入れにおいては、既に実利用いただいております。また、法人事業所間で受入れ対応の際の課題の確認や対応スキーム作りをおこなうなど、想定される拠点利用に向けての検討を重ねています。今後は、伊丹市や市内事業者とともに、面的整備の更なる拡充に向けて連携をすすめていきたいと思っております。

法人本部長 村山 俊宇



独立した
緊急一時ルーム

「いたみ杉の子後援会」への協力について(お願い)

「いたみ杉の子後援会(以下「後援会」)」は、いたみ杉の子が行う障害福祉サービスの利用者の方々へ、より豊かな支援を行うため、クリスマス会などの「季節の行事」におけるプレゼント等の経費や物品の寄贈、また、障がいのある方への理解を広げるための「地域交流事業」などの経費をご寄付としてより多くの方に求める窓口です。皆様方におかれましては、この後援会について、ご理解をいただき、ご支援(ご寄付)をいただきますようよろしくお願い申し上げます。



<ご寄付の方法・問合せ>

口座振込：京都銀行 伊丹支店 普通口座
口座番号：1054987 口座名義：いたみ杉の子後援会
問合せ：いたみ杉の子 事務局：072-777-7486



2023年度にご協力頂いた方々

(順不同、敬称略)

【個人】

小此木富代、小島年美、岸章子、木下学、小林和也、阪本朱音、坂本博司、迫田博幸、佐藤孝志、砂濱警一郎、丹波睦男、坪田敦子、野口公子、濱田義正、村上秀明、山口昶子、山口正幸、山本勇、山本勝治(茶舗木蔭)、山本勝、吉積慶子、吉満野明

【法人・団体】

(特非)伊丹市手をつなぐ育成会、(特非)伊丹アドボカシーネットワーク、エムアイケミカル(株)、カズヒロシステム(株)、北伊丹ダイハツ販売(株)、(社福)協同の苑さつき・くすのき、鴻池自治会、サン技研(株)、庄野電気工事(株)、そら植物園(株)、日清医療食品(株)、関西支店、(株)林建設、(株)宮本設計、(株)山本総合防災

2023年度の後援会費の活用状況

○収入(ご寄付)	586,008円
○支出	371,888円
内容	
	・利用者の夏場の屋外活動用のミストファン購入
	・夏のイベント時における利用者の飲み物・アイス等
	・地域交流イベントでの経費の一部(このいけ秋フェス)
○残金	790,806円
	(2024年度繰越)



「いたみ杉の子家族会」の活動報告

「いたみ杉の子家族会」は、いたみ杉の子(以下「法人」)において、法人の福祉サービスの利用者家族を対象に開催しています。家族会は原則として毎月開催し、法人からの連絡や家族からのご意見を頂いていますが、昨年度からは、ご家族においても利用者支援の現場を見ていただくとともに法人事業にご参加いただくことを目的に「家族活動日」を設けました。この活動日では、家族による“お菓子づくり”や“雑巾づくり”などをして頂いています。

ホームページのリニューアルのお知らせ

このたび、「いたみ杉の子」のホームページをリニューアルします。今回のリニューアルでは、スマートホンでも見やすいレイアウトの変更、法人業務や障がいのある人の支援の魅力をわかりやすくお伝えするイメージ構成、さらに職員募集や研修会への参加などの申込がダイレクトにできるようにするリンクボタンなどの設置などです。リニューアルはこの7月上旬を予定しています。「いたみ杉の子」を検索した時、これまでの初期画面等と大きく変わりますが、従来どおりご利用いただきますようよろしくお願い致します。

すぎのご夏フェス'24 開催決定!!

いたみ杉の子では、例年、利用者の夏の楽しみの一つとして、夏祭りイベント「すぎのご夏フェス」を開催しております。ここでは、日常では感じられない特別な時間を利用者さんとスタッフが共につくりあげ一緒に楽しみます。もちろんご家族はじめたくさんのご協力者にお力添えいただきながら、夏のひと時を過ごしたいと考えております。

つきましては、後援会活動へのご理解とご協力をいただきますようご案内とお願いを申し上げます。



2023年度事業・決算報告

「いたみ杉の子」の2023年度の決算状況を報告します。2023年度は、長引く新型コロナウイルス感染防止施策が緩和され、利用者への余暇活動や地域交流イベントが徐々に増えてきたものの各事業所の利用総数は横ばい状況となりました。しかし、新たなグループホームが開設するなど法人事業の進展があり、障害福祉サービス事業収入は昨年度の2%増となりました。一方、職員の処遇改善も積極的に進めたことから、結果的には当該年度収支差額は昨年度より低くなりましたが、黒字の事業活動収入を得ることができました。

<利用者・職員の状況>

利用者においては、「生活介護」や「就労継続支援B型」「グループホーム」の利用者において、高齢化や入院などで総利用者数は、昨年度を下回る実績となりました。一方、「児童支援」や「相談」の件数は年々増えつつあります。次に職員においては、契約職員の正職員化や多様な雇用形態によるパート職員の確保、また、法人の魅力を発信した採用方法などにより、新規採用を一定数確保することができました。

<利用者(延人数)の推移>

(単位:人)

項目	2023年度	2022年度	差異
介護給付対象者	53,378	54,024	-646
訓練等給付対象者	4,740	5,656	-916
児童支援対象者	2,137	2,079	58
計画相談対象者	974	934	40
合計	61,229	62,693	-1,464

<職員の推移>

(単位:人)

項目	2023年度	2022年度	差異
正規職員	71	65	6
準職員	7	9	-2
パート職員	133	134	-1
合計	211	208	3

<決算の状況>

2023年度の事業活動収入は、利用者総数が当初計画ほど伸びず、昨年度より4百万の微増となりました。一方、支出は、処遇改善の積極的実施により人件費が大幅に伸び、収支差額は、昨年度より4千万低い8千万円となりました。しかし、法人施設の老朽化に伴う改修工事への充当金(積立金)支出を含めると総事業費では赤字の決算となりました。

<2023年度事業活動収支>

(単位:円)

項目	勘定科目	2023年度	2022年度	差異
事業活動収入	就労支援事業	13,710,449	15,128,705	-1,418,256
	障害福祉サービス等事業	873,750,357	864,441,691	9,308,666
	寄附金	80,000	250,000	-170,000
	利息等	194,274	138,798	55,476
	その他の収入	11,138,873	14,670,024	-3,531,151
	収入合計	898,873,953	894,629,218	4,244,735
事業活動支出	人件費	611,422,217	564,841,867	46,580,350
	事業費	86,596,563	88,680,005	-2,083,442
	事務費	94,941,615	94,513,720	427,895
	就労支援事業	13,436,070	14,733,204	-1,297,134
	支払利息	929,243	984,008	-54,765
	その他の支出	9,948,955	8,809,585	1,139,370
	支出合計	817,274,663	772,562,389	44,712,274
収支差額	81,599,290	122,066,829	-40,467,539	

<貸借対照表>2024年3月31日現在

(単位:円)

	2023年度	2022年度	差異	
資産の部	流動資産	397,938,939	413,074,166	-15,135,227
	固定資産	1,591,848,441	1,546,071,377	45,777,064
	資産の部合計	1,989,787,380	1,959,145,543	30,641,837
負債の部	流動負債	117,326,247	87,892,555	29,433,692
	固定負債	199,928,179	213,332,609	-13,404,430
	負債の部合計	317,254,426	301,225,164	16,029,262
純資産の部	基本金	193,643,553	193,643,553	0
	国庫補助等積立金	604,972,763	633,390,162	-28,417,399
	その他の積立金	288,376,009	187,858,826	100,517,183
	次期繰越金	585,540,629	643,027,838	-57,487,209
	純資産の部合計	1,672,532,954	1,657,920,379	14,612,575
負債及び純資産の部合計	1,989,787,380	1,959,145,543	30,641,837	

<財産目録>2024年3月31日現在

(単位:円)

項目	勘定科目	費目	評価額	備考
資産の部	流動資産	現金預金	397,938,939	預金額等
	固定資産	基本財産	1,199,939,410	建物
		その他固定資産	391,909,031	設備・車両等
	資産合計		1,989,787,380	
負債の部	流動負債	事業未払金	43,371,245	
		借入金	14,230,000	
		リース債務	2,335,080	
		預り金	10,199,764	社会保険料等
		前受金	9,360,000	助成金
	固定負債	引当金	37,830,158	賞与等
		設備資金借入金	146,055,000	福祉医療機構
		リース債務	4,581,830	
		引当金	49,291,349	退職給付金等
		負債合計		317,254,426
差引純資産		1,672,532,954		

公開研修のご案内

「いたみ杉の子」では、障害福祉に関わる方やご家族を対象に「公開研修」を年間通じて開催しています。研修では、毎回テーマを決め、その分野に詳しい方を講師にお招きして実施しています。ぜひ、ご参加ください。

- 第1回「発達精神障害のある人と医療との関わり」 講師：掛保川病院副院長 中井祥博氏
日時：2024年6月13日 17:30～19:00 ※実施済み
 - 第2回「ひきこもる子ども・若者とその家族の支援」 講師：関西大学人間健康学部教授 石田陽彦氏
日時：2024年7月12日 17:30～19:30
 - 第3回「障害の重たい人にとって働くとは」 講師：NPO法人ささゆり会代表 原田文孝氏
 - 第4回「アートで開く心の扉」 講師：NPO法人コーナス代表 白岩高子氏
 - 第5回「障害者とその家族の“じりつ”を考える」 講師：社会福祉法人いずみ野福祉会 清時忠吉氏
 - 第6回「いたみ杉の子実践報告会」 助言者：兵庫県立大学社会科学教授 木下隆志氏
- ※3回目以降の詳細は、下段でご案内しているメールマガジン等でお伝えします。

また法人ホームページでもご案内します。

※参加費は無料ですが、今年度より、資料コピー代等で各回1,000円の実費を頂くことになりました。

ご理解のほどよろしくお願いいたします。

■問合せ：いたみ杉の子 発達支援連携室 電話：072-785-3111

スタッフ募集

あなたも「いたみ杉の子」のスタッフとして働きませんか。「いたみ杉の子」では、知的・発達障害のある方の日中活動や地域生活支援をしていただけるスタッフを募集しています。福祉職は“人の暖かさを感じるやりがいのある仕事”です。「いたみ杉の子」では、多様な働き方を用意して皆様からのご応募をお待ちしています。

○募集職種：生活支援員（援助や介助）、相談支援員（※要資格）、児童指導員、保育士、看護師、世話人（家事援助など）、運転士等 ※福祉職が初めての方でも内部研修制度があります

○就労形態：
・フルタイム（週40時間）職員<正規職員、契約職員>
・パート職員（週20時間以内）

○処遇：基本給（国家公務員福祉職に準ずる）、各種手当、資格業務手当、退職共済、共済制度など

■問合せ：法人事務局（下記）まで

いたみ杉の子・メールマガジンの受信登録をしませんか



「いたみ杉の子」では、社会福祉関係者や本法人関連の方々を対象に月1～2回、メールマガジンを発行しています。メールマガジンでは、公開研修のご案内を含め、法人の現況やイベントなどの情報を発信しています。受信（購読）料は無料です。ぜひ、お気軽に受信登録をしてください。配信停止はいつでも可能です。メールは原則、テキストデータでの送信となります。

受信申込先：kouenkai@itamisuginoko.or.jp ※氏名、所属団体、役職、配信先アドレスなどを送信してください

YOUねっと35号

編集・発行 社会福祉法人いたみ杉の子
デザイン・印刷 NPO法人ICCCどりー夢の印刷屋さん

〒664-0006 伊丹市鴻池1-10-15
電話/072-777-7486 FAX/072-777-7446
Mail/honbu@itamisuginoko.or.jp
ホームページ/https://itamisuginoko.or.jp/